

中国の日本語教育と協働学習

北京外国語大学北京日本学研究センター

朱 桂 栄

現在、中国の日本語教育は転換期に入り、教育の質を高めることが大学の課題となっている。その中で「協働」の観点から、日本語学習のあり方を見直すことが求められている。本研究は、中国の大学における日本語教育の状況および協働学習が注目された理由について述べる。それから、中国における協働実践の最新の状況を紹介する。具体的には、「互助型学習」と「創造型学習」の観点から、中国の日本語教育現場の状況を整理し、外国語教育におけるさまざまな協働学習の可能性を探る。そして、北京協働実践研究会の取り組みを紹介し、①6つの「る」の活動理念（「知る、参加する、考える、やってみる、持ち寄る、活用する」）、②「参加」から「参画」へという参加者の変化などの活動成果を報告する。最後に、教師コミュニティという視点から、教師間の協働の重要性を指摘する。